

令和元年度 第2回大垣市スポーツ推進審議会 会議録

日時	令和元年8月22日(木) 10時30分～12時00分
場所	大垣市役所北庁舎 北館1階 教育委員会室
次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 会長あいさつ</li> <li>3 教育長あいさつ</li> <li>4 議事 (1) 大垣市第2次教育振興基本計画(スポーツ分野)の策定について</li> </ol>
出席者(敬称略)	【委員10名、オブザーバー1名、事務局6名 計17名】
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員 堤 俊彦、高橋 正紀、山田 幸隆、松波 尚登、川合 麻美 矢橋 陽子、宇津 慎一、石田 光昭、菅 紀子、大石 玉穂</li> <li>2 オブザーバー 宇佐見 昭典</li> <li>3 事務局 山本 譲(教育委員会教育長) 守屋 明彦(教育委員会事務局長) 堀 恭寿(社会教育スポーツ課長)、河村 幸生(同課参事)、 北村 貴司(同課主幹)、柏 敦子(同課主査)</li> </ol>
欠席者(敬称略)	【委員2名】平松 哲、清水 龍太郎
傍聴者(敬称略)	【2名】長谷川つよし、岩田 浩
課長	<p>&lt;開会にあたって(議事以外の司会進行)&gt; (略)</p> <p>※ 堤会長にあいさつを依頼</p>
会長	<あいさつ> (略)
課長	※ 山本教育長にあいさつを依頼
教育長	<あいさつ> (略)
課長	<p>※ 欠席委員の報告</p> <p>※ 定数の確認</p> <p>※ 審議会公開の報告</p>

<p>会長</p>	<p>大垣市スポーツ推進審議会設置条例第 5 条第 3 項の規程により、会長による議事進行</p> <p>※ 傍聴者 2 名の報告・入室を委員へ案内 (傍聴者 2 名 入室)</p> <p>※ 事務局に対し、『議事(1) 大垣市第 2 次教育振興基本計画 (スポーツ分野) の策定について』の説明を要請。</p>
<p>参事</p>	<p>※ 『議事(1) 大垣市第 2 次教育振興基本計画 (スポーツ分野) の策定について』(資料 P2~8) を説明 (略)</p>
<p>会長</p>	<p>事務局からの説明のとおり、適切な文章の表現になっているかの観点を含めながら、ご指摘、ご意見をいただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>少年スポーツの立場から申し上げます。どこかに、「スポーツを楽しんで、好きになる」という言葉を入れていただきたい。親しむや楽しむはありますが、それが「好き」になると、さらにそこから言葉が成長していく。それがとても大事なことではないかと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>たとえばどの部分ですか。</p>
<p>委員</p>	<p>最初のところでもそうですが、「市民が生涯にわたってスポーツに親しむことができる」を「親しむことと、楽しむことと、好きになる」です。</p>
<p>会長</p>	<p>相手の気持ちにつながり、響くような文言を表現として使った方が、よりアピール度が高くなるのではないかということですね。</p>
<p>委員</p>	<p>どうしてもトップアスリートのイメージが目立ってしまうので、本当にスポーツが好きな人の、体づくりや気持ちの面に注視していきたい。</p>
<p>参事</p>	<p>基本目標 1 のリード文、あるいは基本施策(2) 少年期のスポーツ活</p>

委員	<p>動の充実に、「その種目が好きになる」という表現を入れることを検討します。</p> <p>岐阜大学医学部で因子分析を研究している加藤先生によると、生活習慣病リスクでは、運動やスポーツが嫌いという因子が一番大きな関連因子であると報告されている。嫌いになると生活習慣病リスクが高くなり、医療費も上がることが、3千人～4千人のデータで分析された。</p> <p>スポーツ好きを増やす、スポーツを楽しんで大好きになるという市民を増やすということが大きな目標に入っていると思う。小目標の中で、少年団でスポーツ好きを増やすことはあたり前なので、幼児からスポーツ好きを増やすという施策になってくると思う。前回も申し上げたとおり、子育て支援課と一緒にやっていくなど、市役所内で横の連携をとっていかないといけない。組織改革として大きな問題となると思うが、それをやらないと時代に付いていけないのではないかと思うし、市の未来に関わってくるのではないかと考える。</p>
会長	<p>たいへん鋭いご意見であり、セクションを超えた横の連携プレーが基本計画を出す時に、今こそ大切であると思います。</p>
教育長	<p>子育て支援課と、幼児時期からの運動について連携を図っていく必要がある。大垣市の体力調査の結果を見ると、中学生になると全国平均より上がるが、幼児期では全国平均を下回っている。それは、運動する環境も影響しているのではないかと思うが、そういう状況を踏まえた上で、幼児期から体づくりをしていくことを大事にしていきたい。また、連携のあり方については検討していく。</p>
委員	<p>神奈川県で講演した時に、ある助産師さんが独立して母親の子育て支援をされているのだが、赤ちゃんの運動能力の発達を阻害するような便利グッズがたくさん出回り憂いているとおっしゃっていた。母親は真面目に真剣に育てようとしているが、より安全にという考えが先回りし、歩行器のようなものをはじめ、いろいろな製品が販売されている。赤ちゃんの運動機能の発達はとても大事なことである。</p>

委員	<p>幼児にスポーツや体を動かすことを教えることについて、ACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）をご存知ですか。子どもが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムのことであり、日本スポーツ協会が開発し指導現場への普及を図っているものです。今、少年団に入る前の子どもたちにスポーツを教えて好きにさせ、そこから少年団に入ってもらおうようにすることをすごく盛んに言われている。</p> <p>しかし、問題もある。ACPにも正しいやり方があり、少年団の指導者がそのノウハウを身につけていない以前に、ACPという言葉自体がまだ浸透していない。</p> <p>そこで、大垣女子短大などの学生にACPを勉強してもらい、講師として少年団に行って教える様な事をしてもらうこともいいのではないかという議論をしている。幼児教育に関わっている学生たちを養成して、少年団に派遣という形ができていくと、少年団を広げていくことにつながり、ACPを取り入れるのにもいいと思う。</p>
会長	<p>ACPは、「おおがきっずスポーツスクール」に近いと思う。</p>
委員	<p>バルシューレは近いです。体育連盟の下野さんが、日本スポーツ協会の研修を受講し、ACP指導者の資格を持っている。</p>
委員	<p>少年団の指導者でACP指導者資格を取っている方は少ないので、幼児教育を学んでいる学生が資格を取ってもらえると、各少年団への派遣など、いろいろな意味で助かる。</p>
教育長	<p>大垣女子短大に専門の先生はおみえですか。</p>
先生	<p>レクリエーションの中野先生がおみえです。</p>
教育長	<p>そういう方に、幼稚園や保育園の先生方の研修で指導してもらってもいいと思う。</p>

会長	学生たちにも教えられるといい。
オブザーバー	そこまでは広げていないが、少年団の中では研修会を行いACPの知識を普及している。
委員	少年団の中でACPを行うべきと言われても、人員が足りないためACP専属ではできない。少年団の種目そのものは誰が教えるのかという状況になる。市が幼少期のスポーツ振興に力を入れて、学生を少年団に派遣するなどをしてもらえると、両方にとって非常にいいと思う。
委員	少年団に入った子どもはいいが、約70%の子どもは少年団に入っていない。幼少期に運動しないことは、少年団に入る前の幼児の身体的・精神的な問題につながる。
委員	少年団に入る前に、少年団に入りたいと思わせることが重要な課題となっている。
教育長	学校に入る前の幼児は体を動かすことが大好きだと思う。
委員	幼児は体を動かすことが好きだが、体を動かせない状況になっているというのが、先ほどの憂いている助産師の話。転んでも頭を打たないグッズがかわいいという場面をテレビで見たことがあるが、転ばないように自分で体を動かすことができなくなっていることの方が問題と感じる。
委員	過保護すぎる状況になっていると思う。
委員	今の若いお母さん方と話をすると、親が子どもに痛い思いをさせたくないという気持ちが先回りしてしまっているように感じる。子どもが失敗をして痛がった時に、自分がどう対応したらいいか分からないという親さんも多い。

委員	幼児の時にスポーツをさせる所がなかなかない。
委員	興味がある方は、広報を見たり、子どもと一緒に公園に来るママ友から教えてもらったりして、そうしたスポーツ教室に参加される。そうでない方は、公園でたくさん遊ばせることはせずに、スイミング等のスポーツクラブなど、お金の掛かる有料の施設についつい行かせているようです。
会長	7割近くがそうですから、どうやってスポーツの世界に幼児をつれていくかが問題です。
委員	親が、危ないからダメとなることが大きいので、親に対してスポーツの楽しさを伝えることが必要なのかもしれない。
会長	他にご意見ある方はおみえですか。 幼児の段階の話がでましたが、それ以外も含め全体のご意見がありましたらお願いします。
課長	補足資料につきましては、基本の計画には載らずに、アクションプランとしての扱いとなります。先程のACPも、事務局としてこれから進める内容となります。ここでご意見がありましたらアクションプランに入れさせていただきます。
委員	補足資料 8 ページ、学校施設の開放等について書いてある。昔、健民少年団は学校に宿泊して合宿やキャンプファイヤーもできたが、今では火を焚くことや宿泊も禁止となった。今はできない状況であり、どの程度まで学校開放できるのか。
委員	昔は規制が緩やかだったのでいろいろなことができたが、現状は体育館・グラウンド・プール以外の開放はできない。火や宿泊についても、防火・防犯上等の理由によりできなくなっている。

委員	学校が荒れた時に、多くのガラスが割られたこともあった。昔は宿直室があり誰かが必ずいたこともあるが、今はいないことも関係していると思う。学校でキャンプができると、子どもにとってはいい経験ができるため、できればいいと思う。
会長	市の条例で決められているのか。自然の豊かな所や、市が許可すればできるなど、全国でキャンプができる所はないですか。
教育長	それについて詳しいことは分かりかねます。
会長	全国共通で、小学校では、そういうことはだめになっているのか。
局長	できる所はないと思います。
会長	私立の学校ではやれるのか。
局長	地域でならあるかもしれませんが、民間も火災や防犯上のこともあり難しいと思います。火を焚くことは非常に難しい。都会はアスファルトのグラウンドもあり、火やキャンプでテントを張ることができず、また、地域の方の反応や環境などの条件が違ってきているので、できないことが多くなっているのが現状だと思います。
会長	苦情の問題もでるので、あれもこれも駄目になっている。 補足資料の説明は今回行いますか。
課長	今回は補足資料についての説明をいたしません。計画の具体的な進め方をご理解いただくという意味合いで、付けさせていただきました。
会長	文言など、他にご指摘ありましたらお願いします。
オブザーバー	各課への連携は大切だと思うが、担当課が社会教育スポーツ課のみになっている。学校教育課や子育て支援課など、いろいろな課が関わ

ってくる可能性があるため、市全庁的な体制で取組む計画がいいのではないか。

4 ページ (1)スポーツを支える担い手作りについて、指導者の育成や部活動のあり方について書いてあるが、大垣ミナモを見ると、地域ボランティアの支えが大きな力となっている。スポーツをする人だけでなく、支える、見る人たちにも関心をもつていただくことで、例えばスポーツボランティアの発掘・育成や活用を図り、地域で支えるスポーツの充実に努めることを入れるべきではないか。

5 ページ フレンドリーシティにはまちづくり推進課を入れるべきではないか。

7 ページ 基本施策(1)「触れ合い」が2箇所あり、漢字となっているが、漢字だとハード的な面の意味合いが強いため、ソフト的な意味合いを考えたら、ひらがなで表記した方がいいのではないか。(2)市民総合体育大会や本市独自のスポーツイベントと記載されているが、市民総合体育大会も本市独自のスポーツイベントのため、市民総合体育大会やOGAKIスポーツフェスティバルなど、本市独自のスポーツイベントの充実に努めるとともに、今、大垣独自というか西濃で市内を中心に広域的に開催されている、おおがきマラソンやツール・ド・西美濃などのスポーツイベントを、広域スポーツのブランドとして位置づけるとか、定着をさせることを表記してもいいのではないか。特に、補足資料 7 ページ (2)に③として、広域スポーツのブランド化の定着として追及してもいいのではないかと思う。

8 ページ (4)高齢者や障がいのある人のスポーツ活動の充実ということで、スポーツ推進委員協議会やレクリエーション協会と連携し、と記載してあるが、補足資料に高齢者や障がい者団体との連携強化が明記されている。ここにおいても明確に、かがやきクラブ大垣や県身体障害者福祉協会大垣支部などの連携を明記するべきではないかと思う。また、来年度はねりんピックという大きな行事が開催されるので、高齢介護課や障がい福祉課など意識づけをするためにも明記する必要があるのではないかと思う。

課長	<p>第 1 回の審議会でもお話しさせていただきましたが、この計画は、教育委員会として行っていること、できることをまとめるものです。今までの、大垣市が作る計画については、様々な課が取り組んでいることを集約していたため、施策を十分にやりきることができなかった面もありましたので、今回は、教育委員会としてできることを明記することになっております。宇佐見オブザーバーが言われたことは、アクションプランとして具体的な取り組みを立てて進めなければならないと考えております。アクションプランは、体育連盟や関係団体等と調整する中で、教育委員会としてどのように連携して取り組むかをまとめるような形になると思います。</p>
委員	<p>補足資料で 1 ページの幼児を含む子どもを対象にしたスポーツ教室の開催のところだと、子育て支援課と連携してという言葉もアクションプランに組み入れられるということですね。</p>
課長	<p>社会教育スポーツ課だけではできないため、アクションプランには体育連盟を中心として、内部の組織も入れて作り上げていきます。</p>
委員	<p>アクションプランには、イベントなどツール・ド・西美濃などを表記するんですね。アクションプランに明記するのであれば、計画に担当課を入れる必要はないのではないかと。</p>
局長	<p>教育委員会の中のどこがというイメージで書いてあります。</p>
教育長	<p>他の課もからむため、もう少し精査します。</p>
会長	<p>他のご意見がありましたらお願いします。</p> <p>特になければ収束の方向へ進めていきたいと思います。全体的にいろいろなご意見がありましたので、次回までに事務局で反映していただきたいと思います。以上を持ちまして、今日の審議会を終了させていただきます。ありがとうございます。事務局の方へお返しします。</p>

課長	<p>ありがとうございました。本日いただいた皆さま方のご意見につきましては事務局で検討し反映させていただきたいと思っております。第3回審議会は10月24日を予定しておりますが、資料につきましては事前に配布させていただきます。</p> <p>ご報告ですが、学校教育・社会教育・スポーツなど、他の4分野を合わせた策定委員会が別にごございます。このスポーツ分野の代表として川合麻美様に委員としてご参加いただきます。第3回をもって意見をまとめ、その後につきましては全体の策定員会で最終的にまとめられ策定されます。</p> <p>それでは以上をもちまして、令和元年度第2回大垣市スポーツ推進審議会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。</p>
教育長	<p>お気づきの点がありましたら事務局へご連絡いただきますよ、お願いいたします。</p> <p>=閉会=</p>

前記のとおり、相違のないことを証するため署名捺印する。

令和元年10月2日

議長 堤 俊彦 ㊟

本会議録の作成に係る職務を行った者

社会教育スポーツ課 堀 恭寿 ㊟

捺印されている原本は、大垣市スポーツ推進審議会事務局（社会教育スポーツ課）で保管しております。